

北信教育事務所だより



～子どもに発し、子どもに還る 学校づくり・授業づくり～

令和5年7月14日 第3号

2学期に向け、各学校では学校教育目標具現のために、どのように実践を進めていかれるでしょうか。今回は、北信教育事務所で開催した研修等から、先生方の自己課題の解決を視点を、課題解決の見通しにつながる校内での対話方法について、3つの場を提案します。

対話の場 その1 経験年数の異なる教員同士で語り合う

授業づくりや学級づくりについては、経験年数に関係なく、子どものために何を行ったらよいか思い悩むことも多いのではないのでしょうか。そんな時に、ベテランの先生の経験から助言をいただいたり、逆に、子どもの年齢に近い先生の感性を生かして指導・支援方法を考えたりする場を設けることは、とても有益なことです。

6月27日に開催した初任の先生方と5年経験の先生方との合同研修会では、以下の方法でグループ協議を行いました。

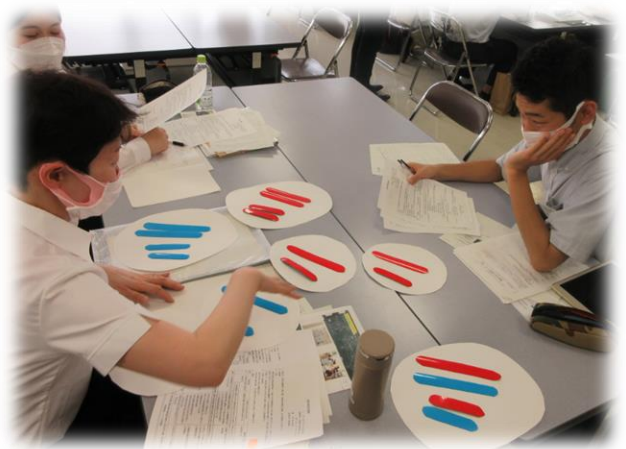
- ① 参加者が協議の目的を明確にする
「1学期の学級づくりや、授業づくりの取組をふり返り、さらに充実した実践になるように手立てを共有する」
- ② どんな授業をつくりたいのか、願う子どもの姿を思い浮かべ、写真や教材をもとに授業でうまくいった瞬間、思い通りにいかなかった瞬間について挙げる
- ③ 意見交換をする（「自分だったら」、「自分の経験では」「こんな風にしてみたら」）
- ④ 実践の見通しを整理する



【経験年数の異なる教員同士で語り合うよさ (参加者の声より)】

先輩の先生から、今現在の課題等についての助言をいただけて、大変助かりました。5年研や、もっと実践を積んでいる先生方との研修があると勉強になります。
(初任者)

初任の先生の生徒との距離感などの悩みを聞くことを通して、改めて自分の考えを捉えなおすことができた。メリハリや、時・場所・場面を選んだ振る舞い方に、自分は重きを置いているのだと思った。(5年経験者)



<本号の主な内容：☆自己課題を解決する対話>

☆その1「初任研・キャリアアップ合同研修」より

☆その2「日々の授業改善研修」より

☆その3「全国学力・学習状況調査」より

☆2学期に向けて（自己課題確認カード、訪問活用案内）

・人権教育研修より・講師募集

・セミナーへのお誘い（生涯学習課より）

頁

①

②

③

④

⑤

添付

対話の場 その2 視点を決め、みんなで教材研究を行う

自己課題の解決に向けてといっても、共通の視点がなければ、話し合いの方向が定まりにくいことが予想されます。そこで「ここを」というポイントを決めて、端的に語り合う場を設けてはどうでしょうか。

例えば、教材づくりであれば、まずは「子どもの興味・関心が高まるもの」を視点に、どんどんアイデアを出し合い、その中から、子どもの実態、育成する資質・能力、実現性を加味して、教材を考えていく、といったことが考えられます。

5月22日に行った、第1回日々の授業改善研修では、先生方の悩みをもとに、授業を構成している3つの要素を視点として取り上げ、解決の糸口を見出していきました。

【参加された先生方の、日々の課題や悩み】

日々の授業を振り返ると、自分から提示してばかりで子どもたちの問いや願いを取り入れられていない。

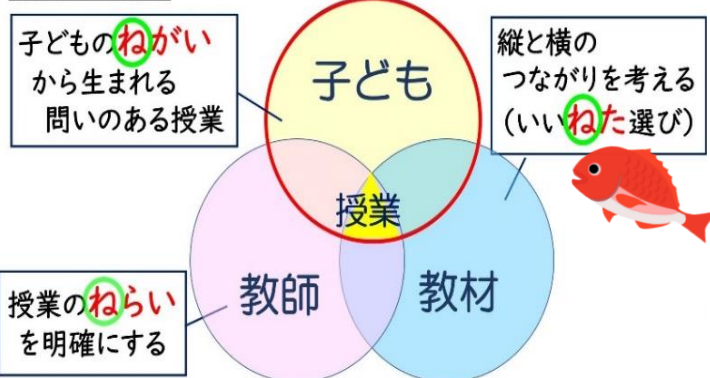
何を教えるかという、教師の願いが一方通行になっている気がする。

教師の考える授業の流れに引っ張ってしまい、生徒自身の中で学習課題が据わらず、授業の流れが生徒の思考に沿っていないように感じている。

生徒主体の授業にするにはどうしたらよいか。



授業の構造



- ① 単元・授業を通して、子ども達が「何ができるようになるか」という、「ねらい」を明確にすると、授業の終末の場面で目指す子どもの姿を具体的に思い浮かべることができるようになる。
- ② 学年間の系統性や、他教科とのつながりを意識しながら、この単元・授業で「何を学ぶのか」、子どもたちの姿を思い浮かべ、興味・関心が高まる旬の「ねた」を選ぶ。
- ③ 「何ができるようになるか」、そのために「何を学ぶのか」が決まったら、子どもがそれを「どのように学ぶか」を考えます。子どもの「ねがい」から生まれる「問い」に注目し、問題解決の過程をたどる授業づくりをする。

【視点を決めて一緒に教材研究するよさ（参加者の声より）】

他校の先生方も多くの悩みや不安を抱えながら授業していると分かった。情報共有することで少しでも自分の今後の力になると感じられた。特に、子ども自らが学び、追究できるようにする教師の出方について考えられるようになった。

単級の学校なので、他の先生方に聞く機会が少なかったのが、有意義な時間になった。グループの先生方から、授業の作り方や、教材研究のやり方など、自分の授業を改善するヒントとなった。明日から取り入れ、よりよい授業をつくっていきたい。

第1時の題材との出会い方を工夫したいと考えました。同じ教科の先生方と、日々の悩みを共有し、柔らかい雰囲気先生方の実践をお聞きすることで、改善点を見直すことができました。

【今後の予定】第3回日々の授業改善研修
11月20日(月) ぜひご活用ください!!

対話の場 その3 全国学力・学習状況調査を基に、授業改善の方向性を語り合う

調査の目的の1つに「学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる」ことが示されています。

そこで、長野県教育委員会作成の「令和5年度全国学力・学習状況調査を生かした授業改善・充実研修Ⅰ資料」や、国立教育政策研究所作成の「解説資料」「授業アイデア例」等を参考にして、教科等横断的な授業づくりについて意見交換するのはどうでしょうか。

例えば、長野県教育委員会作成資料の小学校国語では、以下の例を示しています。

小学校国語の調査では、生活科や総合的な学習の時間に川村さんが探究的に学んでいく中で発揮する国語の資質・能力について問われました。(以下、問1の一より)

【カード②】

6月30日

・雑草取りをしているが、農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた。

【カード③】

7月19日

・学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが追いついていないと考えられる。

川村さんは、カードを選んだ際に、【カード②】の――部分と、【カード③】の――部分に関係があることに気づきました。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 【カード②】の――部分は部分、【カード③】の――部分は全体について書かれている。
- 2 【カード②】の――部分は結果、【カード③】の――部分は原因について書かれている。
- 3 【カード②】の――部分は目標、【カード③】の――部分は計画について書かれている。
- 4 【カード②】の――部分は考え、【カード③】の――部分は事例について書かれている。

出題の趣旨：原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる

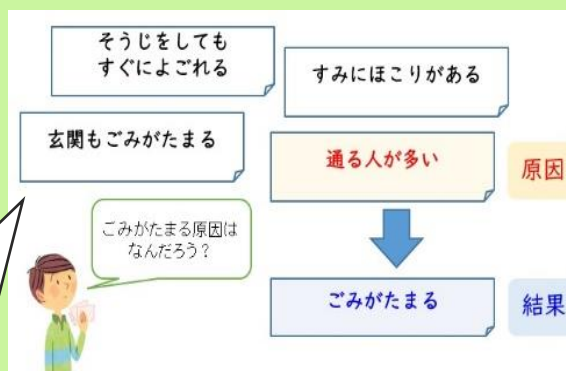
求められる資質・能力

〔第5学年及び第6学年〕知識及び技能（2）情報の扱い方に関する事項

ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。

授業づくりのポイント(例)

例えば5年生の「話すこと・聞くこと」の単元において、右図のように付せんなどを使って原因と結果を結び付ける場面を設定することが考えられます。話し合いにおいてグループで意見を出し合い、結果となる情報の原因となるものを選び、矢印で結び付けるだけでも、原因と結果について考えることになります。



このような内容をもとに、各教科等で共通して、いくつかの情報から関係を読み取り、説明できるような力を育成するための場や、手立てについて具体的な単元や内容、活動場面、学習時期等をあげながら職員間で情報交換することが考えられます。他教科の様子を、担当教科と比較しながら、資質・能力について捉えなおすことで、新たな視点で教科指導を行うことができます。

学級づくり、授業づくりの充実には、先生方の語り合いが不可欠です。3つの例を参考に、先生方のアイデアを生かして、対話の場を設けていきましょう。そして、学校教育目標の具現のための取組を校内の先生方全員で推進していきましょう。



学校の先生方と、学校が願う子どもの姿、学校・教科・学年等の研究テーマ
具現のための自己課題を、どのように更新しますか。

❖ 対話の方法 ❖

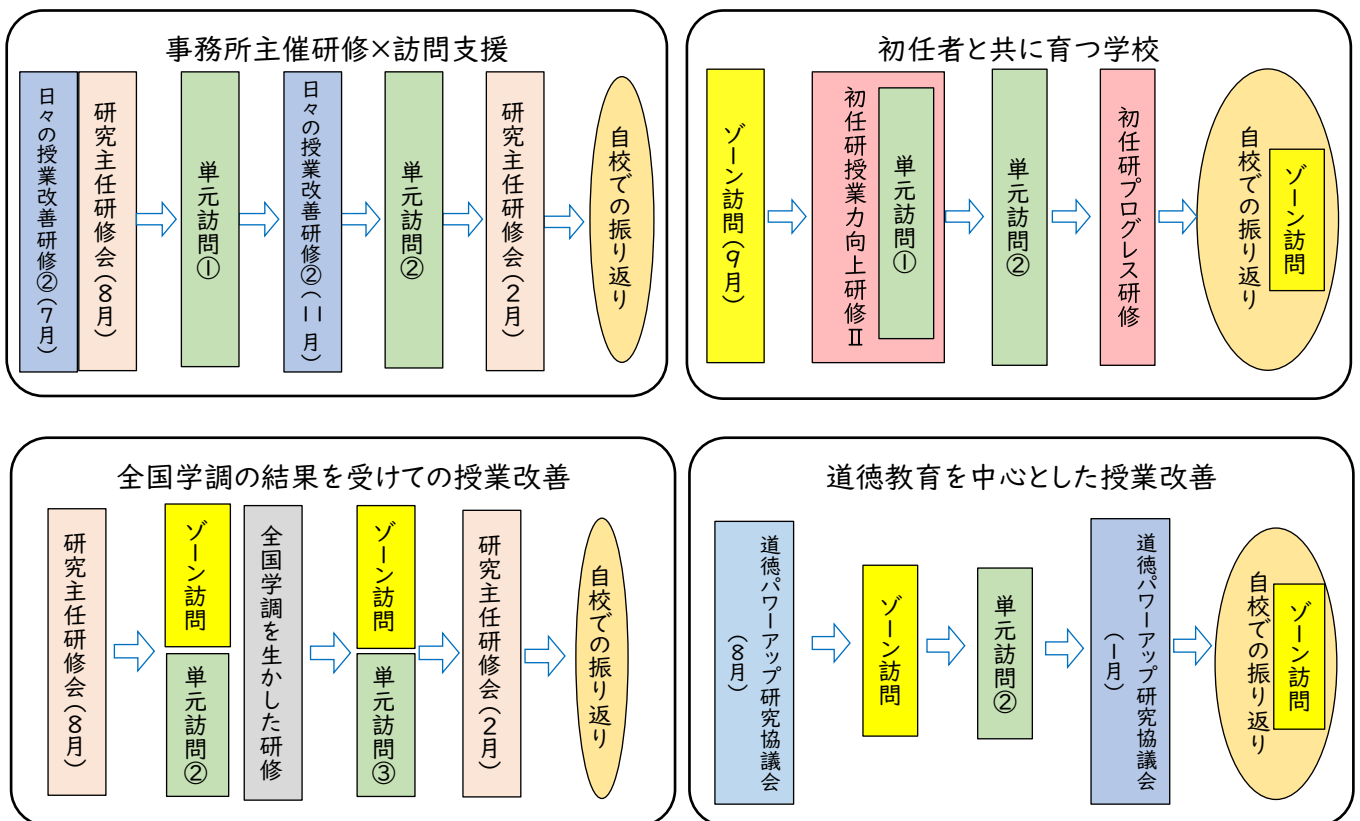


❖ 2学期の私の課題 ❖

まだ間に合います!! 追加の学校訪問支援をご活用ください

学校、そして先生方、子どもの願い実現のために、夏休みから追加で訪問を活用して
いただくことも可能です。研修等で初任の先生から、一人教科で授業に不安があるとい
う声をお聞きます。ともに学校づくり、授業づくりを考えていきませんか。

【夏休みからの訪問支援 活用例】



学校人権教育研修・連絡協議会

5月23日(火) 2年ぶりに参集形式で開催しました。

前半の講演会では、アイヌ出身の関根摩耶さんの講演をお聞しました。

【学校人権教育研修会】

・講演会

演題

「イランカラプテ(こんにちは)」

講師 関根 摩耶さん

【連絡協議会】

・テーマ別グループ協議

アイヌの民族については知識としてはあっても、どこか他人事の話だと思っていたが、アイヌの文化から多くのことを考えさせられた。給食中に牛乳をこぼすと、「なんでこぼしたの」とつい責めてしまうことがあるが、「牛乳をこぼしたのは机が飲みたかったんだね」という言葉がけがとても温かいと思った。普段から教師がそういう言葉がけを心掛けたいと思った。



「あけぼの」の中で、「私は教科書の中の人ではない」と語っておられる関根さんですが、アイヌの言葉やアイヌの文化の温かさについて目の前で語られる関根さんの姿から、まさに生きた言葉として、自分と関わらせながら受け止めている参会者の感想が多く見られました。後半の連絡協議会では、各校で行っている人権教育の実践を語り合いました。その中で、子供の呼び方について多くのグループで話題に挙がりました。

児童生徒の呼び方について話題になりました。学校によって、教員によって呼び方が本当に様々であることを知りました。各学校や先生方が経験されてきたエピソードなどを聞き、教職員の人権感覚が何よりも考えるべきことであると感じました。

研修を通して、教師自身がどのような感覚をもち、1人1人の子供たちに接していくことが大切なのかを改めて考えさせられました。この研修を機会に、自分自身の言葉がけや行動を振り返っていきましょう。

急募！ 講師の先生を探しています。ご紹介ください。

現在、長野県内の小中学校や特別支援学校では、先生方が年度の途中で産育休や療休等取得される際に、その代替となる臨時的任用（講師）の先生が非常に不足しています。北信地区においても、校長先生が懸命に探されても代替となる先生が見つからないケースが多数あり、校内の先生方で協力してカバーしていただいている学校もたくさんあります。児童生徒の学習活動が通常どおり行われるために、講師の先生は必須です。

そこで、先生方のご家族、お知り合いやお近くの方等で、教員免許状を有し、講師をしていただける方をご紹介いただけませんか。1～3か月の短期間必要な学校もあります。ぜひ講師をしていただける熱意ある先生をご紹介ください。

まずは、所属校の校長先生または北信教育事務所にお気軽にお問い合わせ、ご連絡ください。

北信教育事務所 〒380-0836 長野市大字南長野南県町 686-1
電話：026-234-9549

令和5年度 第1回

わくわくスポーツ

セミナー

誰もが生涯にわたりスポーツに親しみ、健康・体力づくりを
実践できる環境づくりを一緒に考えましょう

セミナー
概要

アダプテッド・スポーツの 理解と実践

スポーツをするにあたって、ルールや用具などの環境を
個人の状況によって作り変え、誰でも参加できるスポーツを
「アダプテッド・スポーツ」と呼びます。

今回の研修で、障がいの有無に関わらず、誰もが楽しめる
スポーツ指導について学び、スポーツの可能性を広げましょう。



東海大学
講師 体育学部体育学科
教授 内田 匡輔 さん

参加費無料・先着50名

開催
日時

9月10日(日)

8:50~12:20
(受付8:30~)

場所

長野県障がい者
福祉センター
サンアップル
ホール・体育館

参加申込みQR
9月1日×切



北信教育事務所生涯学習課

電話



026-234-9552

FAX



026-234-9557

mail

tsuchihashi-yuki-r@pref.nagano.lg.jp

ホームページQRコード ▶

